

# 静岡への メッセージ

Message to  
SHIZUOKA

漫画家

しりあがり寿氏

Kotobuki Shiriagari



## 経歴

1958年、静岡市生まれ。1981年、多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業後、キリンビール株式会社に入社し、パッケージデザイン、広告宣伝等を担当。1985年、単行本「エレキな春」で漫画家としてデビュー。パロディを中心にした新しいタイプのギャグマンガ家として注目を浴びる。1994年、独立後は、幻想的あるいは文学的な作品など次々に発表。マンガ家として独自の活動を続ける一方、近年ではエッセイ、映像、ゲーム、アートなど多方面に創作の幅を広げている。

## 「NO」と言える静岡人をめざして

ボクは静岡市の駅前、紺屋町の商店街で生まれました。おぐし神社で池の奥を探検したり、駿府公園ではあのへんなカタチの白いスベリ台（まだありますよね！）で遊んだり、やすらぎの塔の台座によじ登ったり、谷津山では防空壕に潜り込んで叱られたり、静岡での子供時代を満喫しました。いやーホントに楽しかった。

高校を卒業して東京に出たのですが、その時初めて静岡を外から見ると、静岡が他と違うところがいろいろ分りました。「クジラ」のイントネーションが違うこと。静岡以外では冬は小学生が長ズボンをはいているということ。静岡ではどこにでもあったあの濃いおでんがどこにもないこと。

そして何よりビックリしたのは東京では

ちゃんと「NO」を言わなければならない、というのでした。そう、静岡ではヒトに対し、ほとんど「NO」ということがなかったのです。それほど静岡ではお互いに相手の気持ちを思いやり、ヒトのいやがることはしない。だからあえて「NO」と言わなければならない場面はほとんどなかった。

よく静岡の人は人が良いとか言われますが、静岡がおれおれ詐欺の被害者全国」というのも納得ですよ。ね。「オレだよ、息子だよ」と言われたら、静岡の人は怪しんでも「アンタがそう言うんなら、そうらなあー」「お金があるんならしょんねえな」とお金を振り込んでしまおうでしょう。

おそらく静岡の人は余裕があるんでしょうね。自分が生きていくためにはヒトとぶつから